

地域での防災活動

防災・減災対策の基本「自助・共助・公助」

災害の被害を最小限に食い止めるためには、「自助・共助・公助」を組み合わせることが重要です。

いざというときは自分の身を自分で守ると同時に、地域全体の助け合いによる防災活動を展開することが大切です。

●自助「自分の身は自分で守る」

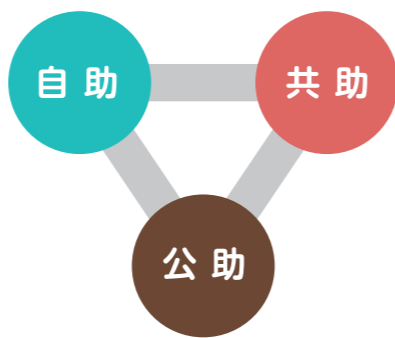
食料の備蓄や防災知識の習得など、普段から災害に対する意識を高め、緊急時のための準備をしておきましょう。

●共助「自分たちの地域は自分たちで守る」

自主防災組織の結成や防災訓練への参加など、災害から地域を守るための相互協力体制の推進を図りましょう。

●公助「行政や防災関係機関による救助・援助など」

町役場、消防署、警察、自衛隊などの機関が、救助活動、避難所の開設、救援物資の支給など、被災者への支援を行います。



自主防災組織

地域住民が連携し、自主的に防災活動を行う組織のことを自主防災組織と呼びます。特に大地震のような災害が発生すると、消防や警察なども同時にすべての現場へ向かうことはできません。こうした事態に備え、地域住民が連携して被害を最小限に抑えることが自主防災組織の役割です。

平常時の主な活動

防災資機材の準備

ヘルメット、消火器、担架、救急医療品、非常食、懐中電灯、ロープ、工具品など、必要な資機材を準備しておきましょう。

防災知識の普及

地域住民一人ひとりの防災への関心を高めることが大切です。地域の人が多く集まるタイミングで避難訓練などの防災イベントを組み込むと、防災知識の普及につながります。



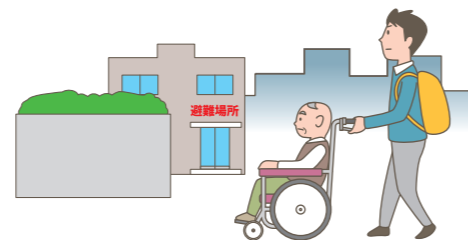
非常時の主な活動

地域での助け合い

負傷者や倒壊した家屋の下敷きになった人たちの救出活動や、火災の初期消火活動を行います。ただし、これらの活動は危険を伴う場合があるため、決して無理はせず、二次災害に注意しましょう。

避難誘導、避難所運営

近隣住民で声をかけ合って安全な場所へと避難しましょう。避難所では、開設や運営、衛生管理を行います。



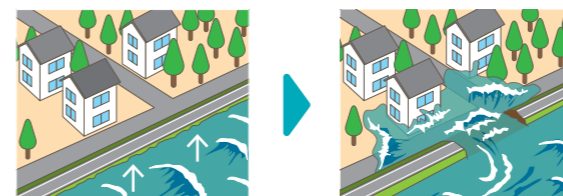
水害が発生する仕組み

外水氾濫と内水氾濫

大山崎町で想定される水害には、河川の氾濫による外水氾濫（洪水）と、水路や下水道があふれる内水氾濫があります。それぞれの水害が発生する仕組みや、想定される被害について理解しましょう。

外水氾濫（洪水）

川の本流から水があふれて発生します。

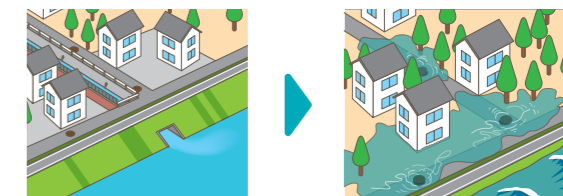


大雨によって河川の水が増え、水位が上がります。町内だけでなく、上流で降った雨も水位に影響します。

堤防いっぱいになると、堤防を越えて水があふれたり、堤防が決壊したりして、周辺が浸水します。

内水氾濫

水路や下水道から水があふれて発生します。



平常時は、平地に降った雨水は下水道などを通して河川に排水されます。

大雨が続くと下水道の処理能力を超えてしまい、平地に水があふれます。

大雨時の災害リスクを知る

雨の降り方から被害を予測することができます。また、想定される災害リスクは流域の中でも場所によって大きく異なります。どのような被害が出るかをあらかじめ想定し、状況にあった避難行動をとることが大切です。

やや強い



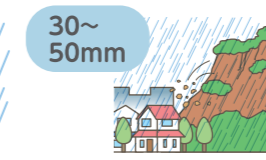
ザーザーと降る
この程度の雨でも長く続くときは注意が必要。

強い雨



どしゃ降り
側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まる。

激しい雨



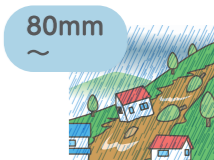
バケツをひっくり返したように降る
山崩れ・がけ崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要。

非常に激しい雨



滝のように降る（ゴーゴーと降り続く）
マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。

猛烈な雨



息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる
雨による大規模な災害が発生するおそれが高く、厳重な警戒が必要。



災害への備え

水害

土砂災害

地震

マイ・タイムライン

災害への備え

水害

土砂災害

地震

マイ・タイムライン